

# 子どもが苦手意識を軽減して、意欲的に人物表現ができるための手立ての研究

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（美術）

井上 由唯

本研究は岡崎市立 A 小学校の 6 年生 116 人を対象にした。子どもが人物表現に対して苦手意識を軽減し意欲的に取り組みながら、躍動感を表現できるようになることを目的とした。そこで、①描きたいもののイメージを湧き立たせる、②自由な表現に加えて必要な描き方を掴ませる、③描画に対して自信をつける、の 3 点を踏まえ、動きとの出会いを大切にし、体験した動きを関節に丸を付けた棒人間として描画で捉える手立てを考案した。

運動会の絵日記で子ども自身が走ったり演技したりする姿を描かせたが、殆どの子どもが関節表現ができていたが、ひねり動きと重なるの描画率が低かった。

そこで関節人形を補助教材として加え、ツイスターゲーム時の動きを、ひねり動きと重なりがある場所の位置関係を探しながら描く実践をした。すると、ひねり動きと重なるの描画率と発見率が向上した。

課題として、ひねり動きは発見率に対して描画率が低く、描画できても認識できなかった子どもがいた。授業回数を増やして描画できたことに気づかせる時間をとり検証したい。